

# 1. 評価結果概要表

作成日 平成21年2月23日

## 【評価実施概要】

事業所番号	3770103608		
法人名	医療法人社団光樹会		
事業所名	グループホーム木太		
所在地	香川県高松市木太町3749番地3 (電話)087-863-5112		
評価機関名	社会福祉法人香川県社会福祉協議会		
所在地	香川県高松市番町一丁目10番35号		
訪問調査日	平成21年1月29日	評価決定日	平成21年2月23日

## 【情報提供票より】 (21年1月5日事業所記入)

### (1) 組織概要

開設年月日	昭和・ <b>平成</b>	17年	4月	1日
ユニット数	2ユニット	利用定員数計	18人	
職員数	16人	常勤	11人	非常勤 5人, 常勤換算 14.8人

### (2) 建物概要

建物構造	鉄骨造り 3階建ての2階 ~ 3階部分
------	------------------------

### (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	40,000~60,000円	その他の経費(月額)	12,000円+実費	
敷金	有( )円	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(200,000円) 無( )円	有りの場合 償却の有無	有 / 無	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり		1,300円	

### (4) 利用者の概要(1月5日現在)

利用者人数	18名	男性	4名	女性	14名
要介護1	0名	要介護2	4名		
要介護3	6名	要介護4	3名		
要介護5	5名	要支援2	0名		
年齢	平均 82歳	最低	59歳	最高	101歳

### (5) 協力医療機関

協力医療機関名	水谷内科クリニック・香川県済生会病院・川原耳鼻咽喉科医院・阿部歯科医院
---------	-------------------------------------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

この事業所は、地域住民から福祉向上の期待のもとに、デイサービス・指定居宅介護支援事業と共に設置・運営されている。屋上の菜園で花や野菜を作ったり、花火やバーベキューを楽しんだり、また、デイサービスを利用して陶芸・手芸など、一人ひとりにあったレクリエーションを積極的に取り入れている。気分転換を図ることで閉じこもりにならない活動的なグループホーム運営を目指している。特に、設置母体の医療機関が隣接しており、状態変化時や日々の健康管理についても密接に連携が行われ、利用者・家族が共に安心・信頼を寄せている。終末期においても、本人・家族・医師・職員間で十分に話し合いを重ね、看取りも含めて希望に沿った支援ができています。利用者が地域の中でその人らしく暮らし続けられる運営が期待できる事業所である。

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	外部評価の結果は全員で確認し、改善課題のユニットドアの施錠については、家族、利用者へのアンケート結果を基に運営者・職員間で話し合い、運営推進会議で広く意見を求め協議し、方針を決定した。また、“ちょっと一言箱”の設置、預かり書の発行などについても取り組んでいる。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	管理者・職員は自己評価の意義を理解しており、職員間で項目ごとに話し合いの機会を持ち、自己評価を作成した。職員は、自己評価を通じて日々の実践を振り返る機会にしている。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	運営推進会議は2か月ごとの開催であり、事業所の活動報告、自己・外部評価の課題など会議の目的が明確であり、効果的に運営されている。利用者の参加が多く活発に意見交換し、利用者主体のサービスの改善・向上に活かされている。今後、さらにサービスの質向上のモニター役としての機能に生かせるよう期待している。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	毎月、担当職員が利用者一人ひとりの健康状態、外出や行事への参加などの暮らしぶりを写真と共に文書で報告し、家族の安心・信頼を得ている。家族が面会や行事に参加された時に個別に意見を聴いたり、運営推進会議でも家族の意見を聴くほか、意見箱の設置・苦情相談窓口を紹介するなど意見表出の機会を設けている。いただいた意見、要望は運営者はじめ関係者間で協議し、取り組み状況を運営推進会議や広報誌「はつらつ」で報告している。
重点項目⑤	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	地元自治会・婦人会・老人会を始め近隣住民やボランティアの積極的な支援・協力があがり、行事への参加や秋祭りには獅子舞の訪問を受けたり、事業所のクリスマス会に地域の人達に声かけするなど地域交流が盛んである。昨年末には、利用者が幼稚園を訪問し、子ども達との温かいふれあいの時間を持つことができた。利用者が地域とつながりを持ち暮らしていることを実感できる事業所である。

## 2. 評価結果(詳細)

(  部分は重点項目です )

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「思いやり、愛情ある介護」を理念として、利用者一人ひとりのこれまでの生活を尊重し、いつまでもはつらつと自分らしく生活できるよう支援することを目標としている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	ミーティングや申し送りの時などに理念について話し合い、共有を図っている。ユニットごとに独自に理念の具体的な実践目標「笑顔でコミュニケーションを大切に」、「利用者同士が支えあい、助け合える生活環境を整える」を定め、日々取り組んでいる。	○	各ユニットで理念の実践目標を共有することにより、利用者の表情や行動に関する情報交換が多くなってきている。さらに、日々の利用者との関わりやケアの実践が理念に基づくものであることを、職員間で認識し理解を深めるための取り組みを継続されるよう期待している。
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会や子ども会の秋祭りでは獅子舞の訪問を受けたり、昨年末には初めて幼稚園へ訪問し、子ども達との温かい交流が実現した。また、屋上の菜園の手入れに地域の方が協力するなど地域との関わりが進んでいる。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	職員は、評価の意義を理解しており、自己評価は職員間でミーティングを開き、項目ごとに話し合い実施した。前回の外部評価の結果は全員で確認し、ユニットドアの施錠についての改善課題や利用者、家族に対する“ちょっと一言箱”の工夫・設置などについて検討し取り組んだ。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議は2か月に1回開催し、日々のケアの実際や評価の取り組みについて報告し、参加者の積極的な意見交換により、活発な会議となっている。特に、利用者の参加が多く、利用者主体のサービスの改善・向上に活かされている。さらに、より多くの家族に参加を働きかけたいと考えている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	介護保険担当、福祉事務所や地域包括支援センターには個別の相談をしたり、意見を求めるなどにより連携をとり、サービスの質向上を図っている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月、担当者が写真を添えたお便りを作成し、事業所での状況を報告している。また、面会時にも日頃の生活ぶりを伝え、安心・信頼を深めるよう努めている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族や利用者が利用しやすく親しみのある意見箱を設置したり、苦情相談窓口を説明しているが、面会や行事の時、運営推進会議の場で直接お聴きすることが殆どである。意見、要望は運営者はじめ関係者間で協議し、運営推進会議や広報誌で取り組み状況を報告している。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の異動は、利用者へのダメージ、家族への影響もあることを認識し必要最小限に抑える努力をしている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	運営者は、職員育成の重要性を認識して内部研修を企画・実践し、外部研修にも派遣している。研修内容は全体に伝達し共有できている。また、ミーティング時や日常の業務をトレーニングの機会と捉えている。	○	さらに、職員一人ひとりの経験や役割などに応じた段階別の研修計画や職員の希望を把握するなど、職員を育てる仕組みについての検討に期待している。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	業務を通じて同業者と交流する機会はあるが、職員が交流する機会を持っていない。今後、他の事業所との相互訪問・勉強会などを計画しサービスの質向上に役立てたいと考えている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用前には見学、話し合いにより事業所の雰囲気に触れて納得し、安心感をもって利用していただける対応に努めている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は、利用者と介護者という壁を作らず人生の先輩として尊敬をもって接している。利用者から励まされたり、温かい声かけで元気をいただいている事を実感している。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	常に、利用者によく話すことにより心がけ、行動や表情から思いや意向を把握し、希望に沿えるよう努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	ユニットミーティングを月1回開催している。利用者・家族・担当者などの意見を踏まえ、利用者主体の介護計画を作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	モニタリングを基に定期的な見直しと、担当者からの意見や状態変化など必要に応じて、利用者、家族他関係者によるサービス担当者会議を開催し介護計画を作成している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	毎日、夜勤者から、かかりつけ医(設置者)への申し送りなど医療連携体制の強化・充実に努め、利用者や家族の安心と信頼を得ている。また、通院・外出・外泊時の送迎、レクリエーション参加の希望にも柔軟に対応している。		
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人および家族などの希望によるかかりつけ医の医療を受けられることを説明し、希望に沿った対応ができています。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化した場合や終末期の過ごし方について、本人や家族、医師、職員が繰り返し話し合い方針を共有し、看取りも含めて希望に沿った支援ができています。最善のケアができるように知識・技術の研修も重ねている。		
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>					
<b>(1)一人ひとりの尊重</b>					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	利用者との関わりに節度を保ち、言葉かけや行動に誇りやプライバシーを損ねることのない対応を徹底している。また、個人情報については細心の注意を払い、取り扱いをしている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりのペースを大切に、声かけしながらその日の希望に沿えるよう柔軟に対応をしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</b>					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	朝食以外は、デイサービスで調理している。一人ひとりのペースや好みを考慮しながら、職員も一緒に同じ食事をし、食事が楽しいものになるよう支援している。また、週2日は各ユニットで利用者と一緒に献立を考えたり、準備・調理・盛りつけ・片づけなど、できることをしてもらっている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	常に利用者の意思を確認しながら希望に沿った入浴ができるよう対応している。		
<b>(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	ガーデニング、手芸・陶芸などを通じて活力のある生活を支援できている。野菜や果物を栽培するなど一人ひとりの思い・力量に応じて過ごせるよう支援している。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	毎月の外食・季節ごとの外出と共に、買い物、散歩する機会を増やすなど、日常的な外出支援をケアの中で大切にしている。		
<b>(4)安心と安全を支える支援</b>					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	前回の外部評価の意見を運営推進会議、利用者、家族とも話し合い、利用者・家族の要望、市担当者の指導もあり安全面の確保から各ユニット玄関は施錠している。職員は鍵をかけないケアについても認識しており、開錠できる時間帯の工夫も考慮に入れている。	○	さらに、利用者の状態、行動などを見極めながら施錠を常態化させない取り組みについての検討に期待している。
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回の消防訓練や避難訓練には、利用者やデイサービス利用者、近隣の家族の協力も得ながら実施している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援</b>					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養バランス・食事量・水分補給に配慮しながら、できるだけ経口摂取を心がけている。食事の形態や食事介助は一人ひとりの状態、力に応じた支援をしている。また、外食の機会づくり変化をもたらすことで食欲増進につながっている。		
<b>2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり</b>					
<b>(1)居心地のよい環境づくり</b>					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	廊下、居間、食堂などは間接照明で落ちついた明るさ、雰囲気を感じられる。壁面には、季節感のある作品が展示されている。また、少し離れた畳の間では、ゆっくりくつろいでテレビを観たり、家族との語らいの場としたり、居心地よく過ごせる工夫をしている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には使い慣れたものや自分の作品を飾るなどにより、居心地よく過ごせるような支援・工夫がされている。		